

の答えを出した生徒も、それぞれ自分の考えの裏付けともいえる理由が明らかでその意味では学習の深まりはみられたと考察できる。

7. 第2次検証授業の考察

この授業では、「『月の光』魅力発見の旅」と題し、不協和音 (ff・con animate と pp・dolce の演奏による比較で神秘性を感得させる) 形式 (変わり目での手ばたき) 出だしの情景描写 (自由に発言させ、修正しながら具体的な情景描写に気づかせていく) の項目に焦点を絞り、生徒に発見させてから説明するという形式をとった。生徒たちは、次々に発見する「月の光」の魅力を楽しんでいたようだ。

8. 結果のまとめ

感じる心を育てるために、仮説にあげた4つの段階を指導過程に組織し、その中でも、感性の枠を広げる相互啓発の場に力点

を置きながら研究を進めてきた。検証授業後の感想で、友達の想像力の違いやすごさに驚く様子が強くみられ、生徒は楽曲のとらえ方の多様性、広がりを感じ取ったうえで作曲者の意図・楽曲の仕組みなどを知り、第一印象より深い曲の味わい方をすることができるようになってきたことも確信できた。この点で、今回の仮説に基づく指導過程は、豊かな感性の育成に有効に働いているといえる。

9. 今後の課題

指示・発問の方法を練り上げることで、さらに相互啓発の場を効果的に機能させ、もっと音楽的な感性を拡大・深化させることができたのではないかと反省している。また、クラシック音楽の生活化を図るまでにはまだ課題が残っている。今年度は、この点を解明していきたいと考え実践的に研究を進めているところである。

学習指導過程 (第一次検証授業, 展開の部分)

<参考資料>

段階	時間	ステップ	学習内容	形態			指導上の留意点 ◇ 評価
				一斉	小集団	個別	
展	8	2. 課題提示	2. 10枚の絵を抽出し、4つのグループに分けてみる。	○ 教師のはたらきかけ ◇ 生徒の活動	○	○	○ 前時生徒たちが書いた作品10枚をあらかじめ抽出しておく。 ○ 色が塗られていない余白の部分に基準を置いたグループ分けを提示する。 ○ 絵の内容には一切基準を置かないグループ分けを提示することによって、生徒に疑問を持たせたい。 □ 10枚の絵を、はっきりした基準に従って4つのグループに分けることができる。 ○ 小集団による啓発の場の設定 □ 自分の考えをもとに、班での話し合い活動に積極的に参加することができる。 ○ 認めたり、疑問を投げかけたりして、軌道の修正を図りながら話し合いを進めさせる。 ○ 必ずしも答えはひとつではないので、教師側の意図どおりにならなくても、大筋があてればよいとしたい。 ○ あえて答えはださない。
			(1) 教師によるグループの分け方を知る。				
開	17	3. 集団思考と集団啓発の場の設定	(2) 個人でグループ分けを考える。	○ 理由もいえるように、一人一人4つのグループに分けて、学習シートに記入しなさい。 ◇ 自分の考えをもとに、積極的に話し合い、学習シートに記入する。	○	○	
			(3) 班で考えをまとめ、発表する。	○ どの班のグループ分けが一番いいと思いますか。			
	6	4. 学習の深まりの確認	(4) 一番よいグループ分けはどの班のものかを全員で考える。	○ どの班のグループ分けが一番いいと思いますか。	○	○	
			(5) (4)で話し合ったものをもとに、「月の光」のイメージが一番合うグループを選ぶ。	○ ☆班のグループ分けで考えるとこの曲のイメージが一番近いのはA~Dのどの組だと思いますか。 ◇ 学習シートに自分の考えを記入する。 ○ この絵の中で、1枚だけこの曲に関係の深い絵がありますがどれ			
			3. 数枚の絵のなかから、自分の「月の光」に対するイメー				○ より注意深く聴かせることをねらい、まぎらわしい絵を1枚入れ